

2011年6月30日

原子力災害対策本部
本部長 菅 直人 様

子どもたちを放射能から守る福島ネットワーク
代表 中手 聖一

福島の子どもたちを放射能から守るため、疎開や避難を含むあらゆる対策をとってください

菅総理、すべての福島の子どもたちを放射能から守る責任者は、もはやあなたしかいなくなっていました。

5月27日、高木文部科学大臣はいわゆる20ミリシーベルト問題を棚上げにして、一部学校校庭の除染に対する財政支援を決めました。しかし子どもたちの被ばく低減については、「学校において…年間1ミリシーベルト以下を目指す」として、学校生活以外の責任を放棄しました。日本人の知恵を総動員して、福島原発事故の放射能から子どもたちを守らねばならないこの時にです。いったい何という国家になってしまったのでしょうか。

子どもたちを守るのは、私たち大人の責任です。子どもたちには、原発事故の責任はまったくありません。けれども放射能は、私たちの愛しい子供たちを、まるで狙い撃ちするかのように襲いかかっています。いまこそ私たちは、英知を結集し、あらゆる手段を講じて、子どもたちを放射能から守らなければなりません。

総理、あなたの決断に子どもたちの命が未来がかかっています。あなたの政治信条である“最小不幸社会”の真価が問われているのです。

私たちはあなたを信じます。勇気を出して、福島の子どもたちを放射能から守るため、疎開や避難を含む、以下の対策をとってください。

- 一、避難区域を拡大し、危険な汚染地帯から誰もが避難できるようにしてください。
- 二、特に、放射線の感受性が高い子どもたちを守るため、学校ぐるみの疎開を行ってください。
- 三、自主的な避難や疎開を行う者への経済支援と補償を行ってください。
- 四、子どもたちを安全な場所に移した後、福島県内すべての学校および地域の詳細調査と除染を行ってください。そして、疎開した子どもたちがもう一度故郷へ戻れる計画を立ててください。
- 五、大人よりも厳しい放射能濃度基準による給食を行うなど、考え得る限りの内部被ばく防護策を行ってください。
- 六、その他、子どもたちに対するあらゆる被ばく低減策を実施してください。

以上